

編集後記



昨年夏ギリシャでの会議出席の帰途、風そよぐアテネのアクロポリスの丘の木陰で、パルテノンや古代アゴラ、現代のアテネの街並などを眺めながら寝そべって半日を過ごす機会に恵まれた。古代ギリシャの哲学者や数学者が逍遙している往時を想像したり、遊覧船から飛び込んだエーゲ海の想像よりは冷たい感触を思い出したり、寛ぎの一時を過ごせた。帰国するとその報復ではないのか、この基礎科学ノートの編集幹事をせよとの苛酷な指令が待っていた。生まれてこの方、編集作業などとの関わりを極力逃げてきた者が五里霧中でやったので、色々問題点も有ると思う。2号、3号とおいおい良くなってゆくであろうと期待してもらおうことで、とりあえずお目こぼしを願う次第である。

(A. I.)

